

**[成果情報名]イチゴ育苗期の炭疽病防除体系に組み合わせる総合的害虫防除体系**

**[要約]**イチゴ育苗期の炭疽病防除体系に、土着天敵の保護、活用を考慮した防除を組み合わせる体系は、ハダニ類やアブラムシ類など主要害虫の発生を低密度に管理できる。

**[キーワード]**イチゴ、育苗期、害虫、選択性殺虫剤、土着天敵

**[担当]**農林技術開発センター・環境研究部門・病虫害研究室

**[連絡先]**（代表）0957-26-3330

**[区分]**野菜

**[分類]**指導

**[背景・ねらい]**

長崎県で主に栽培されているイチゴ品種「さちのか」では、炭疽病やハダニ類が発生しやすく安定生産の妨げとなっている。また、ハダニ類は化学薬剤に対し短期間に薬剤抵抗性を獲得しやすいため、常に有効薬剤が不足している。そのような中、本県では本圃期において天敵農薬のカブリダニ類を利用し、化学薬剤に過度に依存しない防除体系が生産現場で普及してきている。しかし、育苗期においては、天敵等を利用した防除体系が十分検討されておらず、化学薬剤に頼った防除体系となっている。一方、炭疽病に対しては高設ベンチを利用して育苗し、3月中旬から9月中旬まで約10日間隔で、セイビアーフロアブル20とゲッター水和剤を中心とした防除体系で発病を抑制できることが明らかになっている(2011年成果情報)。そこで、育苗期のこの炭疽病防除体系(散布時期、回数)に合わせて、薬剤抵抗性発達のリスクが少ない気門封鎖型を含む選択性殺虫剤を組み込むことにより、土着天敵を有効活用する害虫防除体系を確立する。

**[成果の内容・特徴]**

1. イチゴ育苗期における炭疽病防除体系に土着天敵の保護、活用を考慮した害虫防除を組み合わせた体系(以下、総合防除体系)は、土着天敵の活用や気門封鎖型殺虫剤の散布によりハダニ類の発生を抑制する。(図1-左上)。
2. 本体系ではアブラムシ類やヒメヨコバイ類は、モスピラン水溶剤の7月散布により、それ以降の発生が抑えられる(図1-右上、左下)。
3. 本体系ではハスモンヨトウなどのチョウ目幼虫は、選択性があるフェニックス顆粒水和剤の散布で発生が抑制される(図1-右下)。
4. 以上、イチゴ育苗期において、炭疽病防除体系に気門封鎖型を含む選択性殺虫剤を組み込んだ総合防除体系(表1)は、ハダニ類やアブラムシ類など主要害虫の発生を低密度に管理できる。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 本情報はセンター内の高設育苗床(地上80cm)において、雨よけなし、頭上灌水で行った試験である。
2. イチゴ育苗におけるアブラムシ類およびヒメヨコバイ類の発生は7月にピークとなり、以降は少発生となるため、本体系では7月に両種を同時防除できる薬剤を使用するが、8月以降は各種天敵を保護、活用するため、天敵に影響が少ない薬剤を使用する。また、発生時期および量の年次変動が大きいチョウ目害虫の防除は発生状況に応じ、選択性殺虫剤を使用する。
3. 粘着くん液剤は、薬液が虫体に直接付着しないと効果がないので、葉裏まで散布ムラがないようにする。
4. 本体系における各薬剤混用による薬害は認められない。ただし、粘着くん液剤にアピオンEを加用散布する場合、イチゴの新葉の裏が黒く変色するが、その後の生育に影響は見られない。
5. 本体系の殺虫剤に係る経費(各150L/7000株の場合)は約8,200円、慣行体系に係る経費は約9,000円である。

[具体的データ]

散布時期	炭疽病防除体系	害虫防除体系	
		(混用) 総合防除体系	慣行体系
7月上旬	ベルコート水和剤		オサダン水和剤
7月中旬	アントラコール顆粒水和剤	モスピラン水溶剤	ロディー乳剤
7月下旬	キノンドーフロアブル		カスケード乳剤
8月上旬	セイビアーフロアブル20	フェニックス顆粒水和剤	アフーム乳剤
8月中旬	ベルコート水和剤		カスケード乳剤
8月下旬	アントラコール顆粒水和剤		ピラニカEW
9月上旬	キノンドーフロアブル	粘着くん液剤	コテツフロアブル
9月中旬	ゲッター水和剤	粘着くん液剤	オサダン水和剤

※1殺虫剤、殺菌剤、展着剤（アピオンE×500）を混用。

※2網掛け期間は選択性殺虫剤を使用する。

表1 イチゴ栽培（育苗期）における病害虫総合防除体系モデル

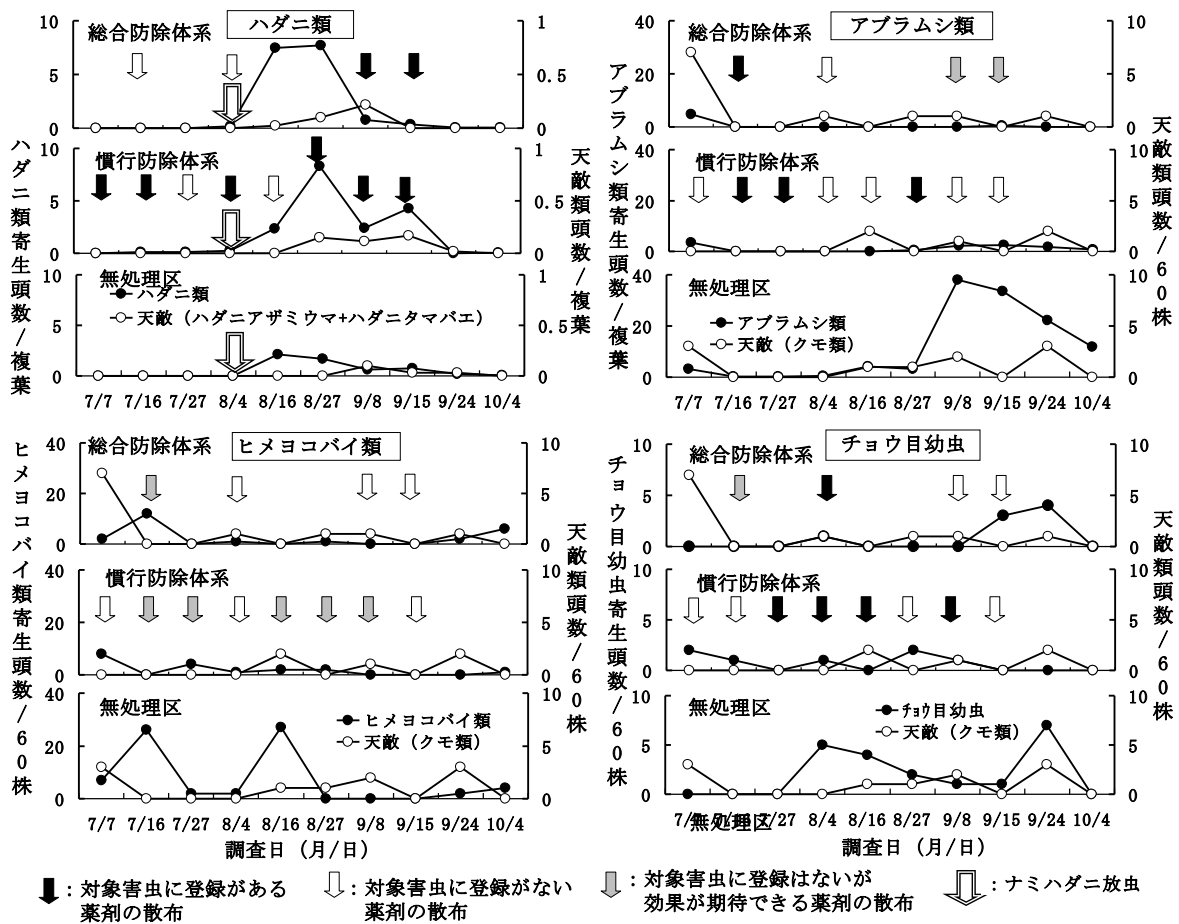


図1 各区におけるイチゴ害虫および土着天敵の発生推移

注1) 散布薬剤名は表1を参照。2) 無処理区は殺菌剤（展着剤混用）を散布した。

3) ハダニ放虫：ナミハダニが寄生したインゲン葉をイチゴ株上に静置した。

[その他]

研究課題名：イチゴ「さちのか」難防除病害虫の制御技術確立

予算区分：経常

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：高田裕司、吉田満明、寺本健